

千葉県婦性会だより

平成 30 年 11 月 1 日

ふくでん

題字：会長 橋本 照稔

更生保護法人 千葉県婦性会

千葉県千葉市若葉区貝塚町 27 番地 tel 043-231-1610 fax 043-231-1621
http://www.chibaken-kiseikai.org E-mail kiseikai@abeam.ocn.ne.jp

先覚者の偉業を継承して

更生保護法人千葉県婦性会

会長

橋本 照稔



更生保護制度において、更生保護施設が期待されている現在、千葉県婦性会百二十年を記念して、「千葉県婦性会百二十年誌」が刊行されることは、時期にかなったことであり誠に喜ばしいことである。千葉県婦性会の前身である千葉県保護院が明治三十年に誕生し、幾多の制度の変遷のうえに今日が築かれたものであることを思い返すとき、先人の残された偉大なる業績に敬意と感謝の念を捧げない訳にはゆかない。

我が国の更生保護制度は、現在でも相当部分を民間の善意に頼っていることは事実であるが、明治初年からの少年教護、免囚保護・出獄人保護の事業は民間の慈善救済事業として出発したことを忘れてはならない事である。

千葉県に於ける更生保護事業の嚆矢は明治十九年に開始した少年教護

施設「千葉感化院」であり、出獄者保護団体としては、明治二十九年、県内有志によって事業が企画され、翌明治三十年、時の恩赦による出獄者の保護を始めたのが「千葉県婦性会」の前身である「千葉保護院」である。この事業も県下仏教寺院の協力により出発したものであるが、経営は常に不如意であり、一時閉院の後、大正三年「千葉県婦性会」として再出発、現在に至っている。

千葉県下の多くの救済事業に仏教各宗寺院が参画し発足継続されてきた貴い歴史を知ることができ、千葉県婦性会は財政も確立されていなかった時代に更生保護事業の道程は誠に険しく苦難の連続で、幾多の困難を乗り越えた先覚者の偉業を継承し未来に繋ぐことが肝心かと思われる。

仏教の教えに「一切衆生・悉有仏性」という語がある。すべての人間は本性の善なることを信ずるが故に、更生保護の道がひらかれるのである。すべての人類が相互に信じ合い、お互いに助け合って生きていく事実が目覚め、耐え忍び、許しあうことこそ、社会生活の基本ルールであることを再認識し、本事業の更なる発展を希求するものである。

『ふくでん』とは千葉県婦性会が過去「千葉福田院」と称したことに因み、名づけたものであり、「福田」とは佛教語で「善い行いの種子を蒔いて、福德の収穫を得る田畑」との意味合いとなります。

題字を書いて戴いた成田山新勝寺貫首であり千葉県婦性会会長でもある橋本照稔大僧正に、この広報誌を「ふくでん」と名付けていただきました。



国道側からみた現在の婦性会。バス停も目の前にあり便利です。

計報

昭和六十三年から弊会の職員として、運営面での発展に多大なる力をいただいた藤平勝敏が、平成三十年九月二日、お亡くなりになりました。満七十四歳でした。いつも笑顔でいて場を和ませ、明るくい人でした。ここに謹んでご冥福をお祈りします。